

令和2年度 県政アンケート調査結果の概要について

令和3年2月
みらい企画創造部企画調整課

【調査目的】 県民の生活と県政に対する県民のニーズ、意識などを把握し、今後の施策の企画立案並びに執行上の基礎資料とする。

【調査項目】	(1) 「県の情報発信」について	(問 1～ 3)
	(2) 「県立図書館」について	(問 4～ 7)
	(3) 「食育・地産地消・食の安全性」について	(問 8～14)
	(4) 「ボランティア活動」について	(問15～18)
	(5) 「自転車損害賠償責任保険等への加入」について	(問19～21)
	(6) 「子育て環境満足度」について	(問22～30)
	(7) 「やまがた緑環境税」について	(問31～33)

【調査対象】 県内在住の満18歳以上の男女個人

【標本数】 2,500

【調査方法】 郵送によるアンケート調査

【調査期間】 令和2年8月中旬～8月下旬

【回収結果】 回収数1,534件 (回収率61.4%)

【調査結果】 (主な調査項目)

※1つの設問において2つ以上の回答を求めたものは、百分比の合計が100%を超える。

○ 「県の情報発信」について

- ▶ 県が行っている情報発信について、『評価する』（「評価する」、「ある程度評価する」）が68.0%
- ▶ 県の情報発信の手段として、更に充実してほしいまたは充実すべきものについて、回答割合が高い項目

第1位「テレビ」(65.0%)

第2位「新聞」(39.5%)

第3位「山形県が発行する各種印刷物（広報誌、ポスター、パンフレット等）」(33.2%)

- ▶ 県の情報発信で、更に充実してほしいまたは充実すべき分野について、回答割合が高い項目

第1位「医療・福祉・介護」(56.1%)

第2位「防災・救急」(36.0%)

第3位「まちづくり」(31.5%)

○「県立図書館」について

▶ 所在地の村山地域では『回数にかかわらず行ったことや利用したことがある』が30.1%で、「行ったことはないが、今後利用してみたい」を含めると47.1%

県全体としては、県立図書館の利用状況は、『回数にかかわらず行ったことや利用したことがある』が19.4%で、「行ったことはないが、今後利用してみたい」が15.5%。

▶ 今後どのような事業に取り組むべきかについて、回答割合が高い項目

- 第1位「講演会・研修会の開催」(21.3%)
- 第2位「移動図書館や宅配サービスの充実」(20.5%)
- 第3位「読み聞かせ会など幼児・児童向けイベントの開催」(19.1%)

▶ ICT機能等の利便性について、回答割合が高い項目

- 第1位「スマートフォン対応の利用案内ページ等の充実」(32.2%)
- 第2位「電子書籍の導入」(23.0%)
- 第3位「郷土資料のデジタル化の促進」(21.6%)

○「食育・地産地消・食の安全性」について

▶ 新型コロナウイルス感染症の拡大による食習慣や生活習慣の変化について、「自宅で同居する家族と一緒に過ごす時間が増えた」が62.8%で最も高く、次いで「自宅で料理などを行い、家族と一緒に食べる機会が増えた」が59.1%、「健康を意識した食生活をするようになった」が58.1%となった

▶ 食育に『関心がある』（「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」）は67.3%、食品（農林水産物）を購入する際、『地産地消を意識する』（「よく意識する」、「たまに意識する」）は69.8%

▶ 食育として特に力を入れたいことについて、回答割合が高い項目

- 第1位「栄養バランスのとれた食生活を実践したい」(52.0%)
- 第2位「健康に留意した食生活を実践したい」(43.4%)
- 第3位「地域性や季節感のある食事をとりたい」(38.1%)

▶ 食育や地産地消を推進するために行う取組みについて、回答割合が高い項目

- 第1位「産地直売所や朝市などの魅力アップ」(55.5%)
- 第2位「学校給食における県産農林水産物の利用拡大」(42.5%)
- 第3位「子どもを対象とした農業体験や調理体験などの食農教育の充実」(29.7%)

▶ 日常生活の中で食品の安全性に『不安を感じる』（「不安を感じている」、「やや不安を感じている」）は54.2%

▶ 食の安全性を高めるために必要な取組みについて、回答割合が高い項目

- 第1位「食品の安全性に関する情報の収集と消費者への情報提供」(47.6%)
- 第2位「食品関連事業者に対する品質管理・衛生管理の指導の強化」(46.9%)
- 第3位「残留農薬検査、放射性物質検査等の強化」(41.8%)

○「ボランティア活動」について

▶ ボランティア活動の参加状況について、『ボランティア活動に参加したことがある』は30.8%、次いで『参加したいが機会がない、事情があり参加できなかった』が44.5%、「参加したいとは思わない」が21.5%

▶ 過去に被災地での災害ボランティア活動に「参加したことがある」は6.1%

▶ 災害ボランティア活動に参加するにあたり、情報を得たものについて、回答割合が高い項目

第1位「その他（学校、知人からの紹介、市社会福祉協議会の呼びかけ、職場）」（45.0%）

第2位「被災地災害ボランティアセンターのホームページ」（24.0%）

第3位「被災県のホームページ」、「テレビ」、「広報誌」（15.2%）

▶ 災害ボランティア活動に参加するうえで、問題となっているものについて、回答割合が高い項目

第1位「災害ボランティア活動に参加する時間がない」（47.3%）

第2位「被災地での活動に不安を感じる」（24.6%）

第3位「災害ボランティア活動に参加するのに必要な情報がない」（19.0%）

○「自転車損害賠償責任保険等への加入」について

▶ 普段の生活で自転車を利用しているは29.6%、一方で利用していないは68.7%

▶ 自転車損害賠償責任保険へ加入しているは45.1%、加入していないは54.1%

▶ 自転車損害賠償責任保険等へ加入していない理由について、回答割合が高い項目

第1位「保険等への加入が義務付けられたことを知らなかった」（19.2%）

第2位「その他（ほとんど乗らないため、これから加入する予定、近所だけなので）」（16.8%）

第3位「保険等への加入の必要性を感じない」（16.3%）

▶ 自転車損害賠償責任保険等への加入状況を改善するための取組みについて、回答割合が高い項目

第1位「テレビやラジオでのPR」（63.4%）

第2位「自転車販売店での周知」（59.6%）

第3位「学校や職場での呼びかけ」（50.5%）

○「子育て環境満足度」について

- ▶ 子育て中で、『子育てと仕事の両立のバランスが取れている』（「取れている」、「ある程度取れている」）は66.0%
- ▶ 子ども連れで出かける場所や遊べる場所が『充実している』（「充実している」、「ある程度充実している」）は29.6%
- ▶ 子どもや子育てを通じて家庭が支えられていると感じる人や組織が『充実している』（「充実している」、「ある程度充実している」）は34.5%
- ▶ 学校の教育環境に『満足している』（「満足している」、「ある程度満足している」）は43.2%
- ▶ 学校外活動に『満足している』（「満足している」、「ある程度満足している」）は33.3%
- ▶ 安全で安心な子育て環境が『整っている』（「整っている」、「ある程度整っている」）は45.1%
- ▶ 『自然環境に恵まれた中で子育てができていく』（「自然環境に恵まれている」、「ある程度自然環境に恵まれている」）は66.8%
- ▶ 子育てをしていく上で、悩みや不安を相談・解決するために活用したいサービスについて、回答割合が高い項目

- 第1位「保育園・放課後児童クラブ」（33.3%）
- 第2位「医療費助成」（31.0%）
- 第3位「子育て支援センター」（24.9%）

○「やまがた緑環境税」について

- ▶ 「やまがた緑環境税」について、負担していることを知っているのは33.5%、税を負担していることも、趣旨も知らなかったは64.4%
- ▶ 森づくりのために参加・協力したいことについて、回答割合が高い項目

- 第1位「植樹祭などのイベントに参加したり、身近な県民の森などで自然に触れることにより森林に親しみ、その働きを学びたい」（23.3%）
- 第2位「県産材を使った木製品や、ペレットストーブを使うなど、県産木材資源の活用に協力したい」（21.9%）
- 第3位「森林や自然環境の大切さを伝える、自然環境教育などのボランティア活動に協力したい」（9.1%）

- ▶ やまがた緑環境税を活用した森づくりを進めるために重要な取組みについて、回答割合が高い項目

- 第1位「将来にわたって森林を守り育てるため、管理放棄をした森林所有者に代わって森林組合などが管理を行う仕組みづくり」（45.4%）
- 第2位「荒廃が進んでいる里山などの森林を、環境保全機能の高い森林へ再生する取組み」（42.1%）
- 第3位「森林内に放置されている未利用木材を熱エネルギー源などに有効利用し、資源の循環利用を進める取組み」（29.3%）